

講演 土木學會誌 第九卷第二號 大正十二年四月

三河島汚水處分場ニ就テ

(大正十一年十一月三日
土木學會第二十七回講演會於テ)

會員工學士原全路

內容梗概

東京市下水改良計畫ノ大要、實施ノ順序、三河島汚水處分場ノ規模並ニ汚水處理ノ方針、三河島汚水處分場設備ノ概要
(一)沈砂池及濾格室
(二)唧筒室
(三)沈澱池
(四)濾過床
(五)最後沈澱井
(六)浮渣唧筒
(七)浮渣槽
(八)其他ノ設備、汚水處分作業概況、水質試驗ノ成績

添附圖面

附圖第一 三河島汚水處分工場平面圖

附圖第三 同

唧筒室附近斷面圖

附圖第二 三河島汚水處分工場唧筒室附近平面圖

附圖第四 同

沈澱池設計圖

附圖第五 同

濾過床平面圖

附圖第六 同

濾過床構造圖(其一)

附圖第七 同

濾過床構造圖(其二)

附圖第八 同

濾過床撇水機配置圖

附圖第九 同

沈澱井設計圖

附圖第十 同

浮渣唧筒室設計圖

附圖第十一 同

浮渣槽設計圖

都市ノ衛生的施設ハ現時尙未ダスノ如キ不満足ナル狀態ニアルト云フコトノ印象ヲ更ニ深クシテ頂クコトガ出來マシテ是ガ促進ニ關シ一層各位ノ御考慮ヲ煩ハスコトヲ得マシタナラバ獨リ私ノ幸ノミデナカラウカト考ヘルノデアリマス

東京市ノ下水改良計畫ハ明治四十一年ニ於テ當時ノ東京市區改正委員會ノ議定ニ係ルモノデアツテ中島博士ノ御考案デアリマス今其大體ヲ極ク搔摘ンデ申シマスト地勢ノ關係ニ依リ東京市區域全體ヲ三大別シ各區域各別ニ污水ノ排除並ニ處分ヲ講ズルモノデアツテ其内隅田川ヨリ以西ノ大部分即チ芝、麻布、麹町、赤坂、四谷、牛込、小石川、本郷、京橋、日本橋ノ十區ソレニ神田區ノ大部分及下谷區ノ一部ヲ加ヘテ之ヲ第一區トシ此區域ノ下水ハ全部一旦芝浦ニ集メ更ニ海底ヲ渡リ第七號臺場沖ニ設置スル處分場ニ導キソコデ處分ノ上品川灣ニ放流スルコトニナツテ居リマス又上野臺、本郷臺ヨリ以東神田川以北ノ低卑ナル地區即チ下谷、淺草兩區ノ大部分並ニ神田區ノ一部ヲ第二區トシ此ノ區域ノ下水ハ總テ是ヲ集メテ南ヨリ北ニ導キ三河島處分場デ處理シタ後荒川ニ放流スル計畫デアリマス殘ル所ノ隅田川以東ノ本所、深川兩區ヲ第三區トシ此區ノ污水ハ東ニ導キ砂村ニ集メ其處ニ處分場ヲ設ケテ處分シタ上デ中川ニ放流スル次第デアリマス極ク大體ノ計畫ノ骨子ハ右申シ上ゲタ通リデアリマス

此内東京市ニ於テ第一着ニ着手致シマシタノハ下谷、淺草方面ノ即チ第二區ノ工事デアリマシテ明治四十四年度ニ於テ起工シ工費一千五百萬圓ヲ以テ本年度竣工ノ豫定デアリマス又第一區ニ對シテハ從來只雨水汎濫ノ被害烈シキ部分ニ就キ局部的ニ雨水吐工事ヲ施行シタニ止マツテ居リマシタガ更ニ昨年以來京橋、日本橋兩區ノ全部並ニ麹町區ノ内丸ノ内芝區ノ一部等所謂本市ノ中樞區域ニ對シ工事ヲ施行スルコトトナリマシテ目下施行中ニ屬シテ居ル是ガ工費豫算二千萬圓大正十六年度竣工ノ豫定デアリマス

上述以外ノ地域ハ本市全面積ノ約八割ヲ占メテ居リマスガ是ニ對シテハ一面ニ於テ設計上尙考慮ヲ要スル點ガアリマスルノト他面ニハ約一億圓ノ工事費ヲ要シ財政ノ關係上マダ手ヲ著ケルコトガ出來ナイト云フ有様ニナツテ居ルノデアリ

マス

今日オ話致シマス處ノ三河島汚水處分場ハ前ニ申シ上ゲタ東京市下水計畫ノ内第二區即チ淺草、下谷方面ノ下水ヲ處理スル所ノ施設デアリマシテ府下北豊島郡三河島町ニ設ケテアリマス之ガ敷地總面積ハ約五萬六千坪其位置ハ千住大橋ノ上流荒川ノ右岸ニ位シテ居リマス此處ニ設ケタル設備ノ主要ナルモノハ附圖第一ニ示スガ如ク(一沈砂池及濾格室(二唧筒室(三沈澱池(四濾過床(五最後沈澱井(六滓渣唧筒室(七滓渣槽等デアリマス

本處分場各般ノ施設ハ差當リ施行區域内ノ人口四十萬人ヲ目途トシテ其規模ヲ定メタモノデアリマシテ人口一人當一日ノ總排泄污水量ヲ最大六立方尺ト豫定シ若干ノ地下水量ヲ合セテ乾天時一日最大量二百七十六萬立方尺ノ污水ヲ處理スル能力ヲ有セシメ又降雨時ニ於テハ污水幹線ニ依テ處分場ニ到達スル雨水ヲ合セテ毎秒約百六十五立方尺ノ污水ヲ取り扱フコトヲ得ルノデアリマス

現時施行中ニ係ル第二區ノ面積ハ約二百一萬八千坪此人口大約三十四萬五千人ニ過ギナイノデアリマスガ此區域ニハマダ施行ニ著手シテ居ナイ部分ガアリマシテ此等ヲ合算致シマスト第二區ニ屬スル將來ノ總排水面積ハ二百七十萬坪以上ニ及ビ其人口ハ將來ノ増加ヲ見込ミ約六十萬人ニ達スル見込ミデアリマス從ツテ本處分場ニ於テ將來取扱フコトヲ要スル汚水量ハ前ニ申シ上ゲタ水量ノ約五〇%モ增加スル次第デアリマスカラ處分場ノ敷地面積ハ將來必要ニ應ジテ各設備ヲ擴張シ得ル餘地ヲ存セシメ管渠其他ノ構造物モ將來擴張ニ著シク不便ナルモノハ最初ヨリ之ニ適應スル規模ヲ有セシメテアリマス

汚水處理ノ方針ハ處分場流出水ニヨリ荒川ノ水質ヲ污染セシメナイ即チ流出後ニ於テ腐敗ヲ生ジ惡臭ヲ發散サセナイト云フコトヲ目途ト致シタモノデアリマシテ乾天時最大量ニ達スル迄ノ污水ハ凡テ此處分場ニ於テせじめんてーしょん並ニばくていある・とりーとめんとヲ施シタル後荒川ニ注ガシメ又降雨時ニ於テソレ以上乾天時最大量ノ三倍ニ達スル迄ハ凡テ沈澱池ヲ通過セシメ三倍以上ノ稀釋污水ハ直接荒川ニ放流致シマス

次ニ各設備ノ構造及ビ汚水處理ノ經路ニ就テ其大要ヲ申上ゲマス

一 沈砂池及濾格室（附圖第一及第三參照）

汚水ハ内徑九尺五寸深六尺勾配二千分一ノ污水幹線ヨリ處分場ニ到達シニ本ニ分歧シテ沈砂池（でとりたす・たんく）ニ入りマス其管底ハ靈岸島水準基標零點以下十一尺ノ深サニアリ其最高水位ハ零點下五尺デアリマス

沈砂池ハ長サ六十五尺幅十八尺深サ十七尺最大水深十二尺其容量各約一萬一千立方尺ノモノ二個ヲ備ヘ其底部深五尺ノ部分ハでとりたす・ちんばーデアリマシテ其容量各約三千九百立方尺ニ相當致シマス

下水ノ本池ヲ通過スル流速ハ乾天時最大每秒六寸降雨時最大每秒九寸ヲ超過致シマセヌ依テ下水中ノ砂礫其他ノ粗大固体物ハ容易ニ沈澱スルコトヲ得ルノデアリス

沈砂池ノ流出口ニハ濾格（すくりーん）ヲ備ヘテ浮遊物ヲ阻止致シマス濾格ノ網目ノ間隔ハ一吋其間隙總面積ハ污水幹線斷面積ノ約三倍ニ當リマス濾格室ニハ上家ヲ設ケ七馬力半ノ電動機ニヨリ運轉スル自動搔揚機ヲ備ヘ濾格面ニ阻止サレタル浮遊物ヲ間断ナク捕捉ルノデアリマス又でとりたす・ちんばーニ堆積スル沈澱物ハ各池ノ兩側ニ敷設セル軌條上ヲ移動シ每分ニ立方尺ノ能力ヲ有スル二臺ノ電動ばけつと式浚渫機ニヨリ常ニ之ヲ浚渫致シマス浚渫シタル沈澱物並ニ浮遊物ハ鋼製運搬車ニ積込ミ更ニ捲揚機ニヨツテいんくらいんヲ引揚ゲテ棄場ニ運搬致シマス

斯ノ如ク沈砂池及ビ濾格ニヨリ大略固形物及ビ浮遊物ヲ分離シタル後汚水ハべんちゅり・めーたーラ通過シ進ンデ唧筒井ニ流入致シマス

二 唧筒室（附圖第二及第三參照）

さくしょん・うゑるニ於ケル水位ハ最高零點下六尺最低零點下九尺デアリマシテ荒川放水口附近ノ平均高水位ハ標高七尺沈澱濾過等ノ處理並ニ下水ノふろーニ要スルとーたる・ろづ・あぶ・へつどハ最高約十二尺五寸ヲ要シマスルノデ唧筒機ニ仍リ標高十九尺五寸ノ送水渠ニ下水ヲ汲揚致ス次第デアリマス

唧筒ハ電動機直結のくち式特製渦巻唧筒九臺ヲ設備シ時々刻々變化スル下水量ニ應ズルタメ三種ノ異リタルゆに。と
ノモノヲ備ヘテ居リマス即チ

第一種 三臺、各排水量每秒三十立方尺、吸水管口徑十六吋、回轉數每分五百、電動機出力六十五馬力

第二種 三臺、各排水量每秒二十立方尺、吸水管口徑二十二吋、回轉數每分五百、電動機出力百二十馬力

第三種 三臺、各排水量每秒四十立方尺、吸水管口徑三十吋、回轉數每分三百七十五、電動機出力二百三十馬力

以上合計九臺總排水量每秒二百十立方尺第三種一臺ハ豫備用トシテ設置セルモノデアリマシテ尙將來必要ニ應ジテ第三種一臺ヲ增設シ得ル様ニナツテ居リマス

唧筒運轉補助機關トシテ五馬力電動機附ばきやむ・ほんぶ二臺三馬力電動機附壓力水唧筒二臺ヲ備ヘ唧筒ノ始動用充水ハ真空裝置ニ仍リてりベリ一・ぱいぶニ附屬セル瓣ノ開閉ハはいどろりく・あ・ばらたすニ仍ツテ之ヲ行フモノデアリマス

唧筒場ニハ前述ノ唧筒設備ノ外變壓器其他ノ電氣設備ヲ裝置シテアリマス其主要ナルモノハ

一次電壓 一一〇〇〇ボルト

二次電壓 三〇三〇〇ボルト 容量四五キロ・ボルト・あん・ペ・あ變壓器七臺(内一臺ハ豫備)

一次電壓 一二二〇〇〇ボルト

二次電壓 一一一〇及一一〇ボルト 容量六五キロ・ボルト・あん・ペ・あ變壓器四臺(内一臺ハ豫備)

出力六キロ電動發動機 二臺

蓄電池 六十個

以上用配電盤一式

等ニアリマス本處分場ニ於テ使用スル電力ハ鬼怒川水電ニヨルモノデアリマシテ電氣局所屬小沼開閉所ニ二十五さいく

234

る一萬一千ぼるとノ電壓ヲ以テ受電シ 本場ニ於テ三千三百ぼるとニ遞下シ 二條ノ電纜ニヨリ 本處分場及ビ 濑草唧筒場（雨水排除用唧筒場）ニ送電致シマス

本場ニ於テハ高壓電力ノ一部ヲ主唧筒連轉用ニ使用シ他ノ一部ハ更ニ低壓變壓器ヲ通ジテ二百二十ぼるとニ降下シタルモノヲ諸機關運轉用ニ百十ぼるとニ降下シタルモノヲ場内照明用ニ使用致スノデアリマス
各唧筒ノボリベリ一ぱいぶノ末端ハ沈澱池ニ近接セル送水渠ノ側壁ニ開口シ 送水渠ノ一端ハ延長シテ沈澱池入口側溝トナリ乾天時最大汚水量ノ三倍ニ達スル迄ハ 沈澱池ニ送リ 送水渠ノ他端ハすとーむ・げーとヲ經テ排水渠ニ連リ雨天時ニ於ケルえさせす。すとーむ・うちーたーラ直接荒川ニ放流セシムルモノデアリマス

三 沈 澱 池 (附圖第四參照)

沈澱池ハ こんちにあす・ふろー・しすてむデアリマシテ 各長二百八十尺幅七十尺有效水深五尺乃至六尺ノモノ六個ヲ設備シテ居リマス 池ノ底部ハ横断面ニ於テ側壁ヨリ中央ニ向ヒ五十分一ノ勾配縦斷面ニ於テ出口ヨリ入口ニ向ヒ百二十分一ノ勾配ヲ有シ 薬研形ヲ成シ 其部分ヲ津渣（すらっぢ） 沈澱室ニ充テ、居リマス 六池ノ内一池ヲ豫備トシテ五個ヲ常時使用スルモノデアリマシテ 一池ノ容量ハ九萬八千立方尺乃至十一萬七千六百立方尺 津渣ノ容量ハ約三萬立方尺 デアリマス

汚水ノ沈澱時間ハ乾天時最大量ノトキ約四時十六分乃至五時七分デアリマシテ 其流過ニ要スル最大流速ハ毎分凡一尺二寸ヲ超過セザルヲ以テ下水中ノ微細浮遊物ノ大部分ハ容易ニ沈澱除却セラル、見込デアリマス

滓渣排除ハ期節ニヨリ一様デアリマセヌガ 各池共平均約一月ニ一同之ヲ行フ豫定デアリマシテ 其方法ハ先づ汚水ノ流通ヲ遮断シ次ニ隔壁ニ設置セル上澄水排除口ヲ開キ 上層汚水ヲ暗渠ニ導キ之ヲ唧筒井ニ返流セシメ 津渣層ノ露出スルニ及シテ 津渣排除口ヲ開キ 暗渠ヲ通シテ 津渣唧筒井ニ導キ 唧筒ニヨツテ 波揚シ更ニ鐵管ニ仍ツテ之ヲすらっぢ。たんくニ送致スルノデアリマス

沈澱汚水ハ各池ニ設クル四箇所ノ流出口ヨリ排水渠ニ流出シ分岐シテ濾池給水渠ニ入り給水槽ヲ經更ニ内徑三尺五寸ノ給水管二條ニ仍リ濾過床配水溝ニ達スルノデアリマス

四 濾過床（附圖第五乃至第八參照）

濾過床ハす。ぶりんくりんぐ・ふるたー又ハとり。くりんぐ・べ、どト稱スルモノデアリマシテふるたー・めじあむノ上ニさいほん式直動下水撒水機ヲ以テ下水ヲ撒布處理スルモノデアリマス
床ノ太サハ長約二百二十尺幅約五十尺並ニ長約二百二十尺幅約百一尺ノ二種類アリマシテ前者ヲゆに、トシ此單位ノモノ一對ヲ以テ一組トシ之ヲ附圖第五ニ示ス如ク左右八組宛配置シ其總數十六組ヲ要スルノデアリマスガ差當リ十四組ヲ築造シアトニ組ハ汚水量ノ増加ニ伴ヒ逐次増設ノ豫定デアリマス

各床ノ外壁ハ一尺角長一尺五寸中央ニ通氣孔ヲ有スル混擬土塊ヲ積重ネ床ト床トノ隔壁ハ同ジク混擬土塊ノ二重壁デアリマシテ其中間ノ下部ハ處理水ヲ引出ス集水渠トナリ其頂部ハ沈澱水ヲ導キテ濾過床ニ供給スル配水渠トナツテ居リマス（附圖第七參照）又床ノ底部ニハ隔壁間ノ集水渠ニ直角ニ中心距離十二尺二寸ニ配置セラレタル多數ノあんだー・どれーんガアリマシテ處理水ヲ集メテ集水渠ニ送リマス

床ノ深サハ六尺デアリマシテ其底部全面ニハ二寸角高二寸五分ノ混擬土臺ノ上ニ一尺角内外ノ鐵平石ヲ乘セテべんちれーしょん・ふろあーノ構造トシ此上ニ徑三時半乃至二分一時ノぶろーくん・すとーんヲ積重ネテふるたー・めじあむニ充ツルノデアリマスガ其厚サ及ビ太サハ

第一層 厚一尺（通氣床トモ）	徑三時半乃至二時
第二層 厚一尺五寸	徑一時半乃至一時
第三層 厚二尺	
第四層 厚一尺五寸	徑一時乃至二分一時

其總面積三十萬八千平方尺（約八千五百五十五坪五合）濾過材ノ總容積ハ約百八十四萬八千立方尺デアリマス。各組ノ濾過床ハソレゾレ一對ノ撒水器ニヨリ作業セラレ十四組ノ撒水器ハ一時間約十五萬三千三百六十立方尺ノ能力ヲ有シ一日最大乾天時汚水量二百七十六萬立方尺ヲ處理スルニ大約二十時間内外ヲ要スル見込デアリマス即チ濾床面一平方尺ニツキ一日約九立方尺濾過材一立方尺當リ約一立方尺半ノ汚水ヲ處理スルコト、ナルノデアリマス。

撒水機ハ英國とれんと市はとれ。そんす會社ノ專賣品デアリマシテ該會社ノ設計ニヨリ株式會社日立製作所並ニ荒川製作所ヲシテ製作セシメタモノデアリマス其構造概要ハ附圖第八ニ示ス如ク濾床ノ側壁又ハ中央支柱上ニ敷設シタル軌條ノ上ヲ毎秒一呎、速度ニテ往復走行スル台梁ニヨリ支持セラタル特種形漸縮管ヲ主體トシ之ニ多數ノ撒水用のづるヲ取附ケタモノデアリマス。

管ノ一端ハいんてぐ・さいほんデアリマシテ配水渠内ニ垂下シ其頂部ニさいほん作用始動用ノ手押真空唧筒ヲ備ヘさいほんノ下部ハこゝニ仍リ特種管ニ接續シこゝハゑんどれす・ちゑーんニ仍リさいほん管頂部ニ裝置セル轉動聯接機構ニ連リ台梁ガ軌條ノ上ヲ走行シテ其末端ニ至ツタトキ聯接機構ノあむガ配水渠内ニ建ラレタル衝突子ヲ打ツコトニヨリこゝハ自動的ニ迅速ニ開閉シテ或ハ下水ヲ流入セシメ或ハ之ガ流入ヲ遮斷致マス。

撒水機ノ往復運動ハ附圖第八ニ示ス如ク一對ノ濾過床ヲ繞リテ設ケラレタルゑんどれす・ろーぶ並ニ之ニ聯結シ濾過床ノ中間ニ設置セル電動機室内ノ逆轉裝置ノめかにずむニ仍ルモノデアリマシテ一對ノ撒水機ハ走行軌條ノ上ヲ各反對ノ方向ニ移動シ且ツ交互ニ撒水シ濾床面上二呎ノへどニ於テ毎秒約三立方尺ノれーと・おぶ・ぢすぢーじヲ有シテ居リマス此へどハ床面上一尺五寸迄低下シ撒水量ヲ調節スルコトヲ得ルノデアリマスガ夫以上低下スレバ撒水ノ分布ガ不規則トナリマス。

濾過床構造ノ大要ハ前述ノ通リデアリマシテ要スルニふるた・一めじあむ内ニ空氣ノ流通ヲヨクシ主トシデゑーろびく・ばくとりやノ繁殖活動ニ適當ナラシメタモノデアリマス豫備處理ヲ受ケタル沈澱下水ガ撒水機ニヨツテ週期的ニ撒

布セラレ碎石層内ヲ滴下スル間ニ腐敗性ノ溶解有機物ハ細菌ノ作用ニヨリ生物的化學變化ヲ受ケ酸化清淨セラレする。こんばうんどトナツテ流出スル次第アリマス

五 最後沈澱井（附圖第九參照）

濾過床ヲ出タ流出水ハ沈澱シ易キ微細圓形物ヲ含有シテ居リマスノデ之ヲ抨止スルタメ最後沈澱井ヲ設ケテアリマス。最後沈澱井ハ圓形ニシテ各内徑二十五尺總深二十四尺二寸ノモノ一個ヲ設置シ濾過下水ハ沈澱井ノ四周ヨリ側壁中部ニ設ケタル多數ノすりつヲ經テ井内ニ入り固形物ヲ沈下シタル後上澄水ハ放出口ヨリ出デ、荒川ニ注ギマス。

沈澱井ノ底部深十一尺五寸ハ滓渣溜デアリマシテ圓錐形ヲ成シ此處ニ沈澱シタル物質ハ水壓ヲ利用シ鐵管ニ仍リ排出シ更ニ唧筒ニヨリテ汲揚シすらばだたんくニ送ルノデアリマス

六 滲渣唧筒（附圖第十參照）

沈澱池ヨリ排除セラレタルすらばだタ濰渣槽ニ壓送スル唧筒デアリマシテるのくち式渦卷唧筒二臺ヲ設備シテ居リマス。各唧筒ハ吸水管及ビ排水管共口徑十二吋排除量每分百二十五立方尺回轉數每分約七百四十直結電動機ハ交流三相二百二十ばると出力五十馬力デアリマス

七 滲渣槽（附圖第十一參照）

滓渣槽ハ圓形ノモノ二個ヲ設ケ各直徑七十二尺有效水深八尺其底部ハ勾配五分一ノ圓錐形ヲナシ容量約三萬六千立方尺デアリマシテ沈澱池一個分ノすらばだタ優ニ收容スルコトガ出來マス

すらばだタ數日間槽内ニ靜置セシメ分離シタル上層水ハ溢流管ニヨリ唧筒井ニ返送シ下層ノ濃厚滓渣ハ槽底ノ平板弇ヲ開キ内徑十二吋ノ鐵管ニヨリ水頭ヲ利用シ之ヲ運搬船ニ積込ミ隅田川ヲ下リ更ニ東京灣ニ輸送シ灣内適當ノ位置ニ於テ海中ニ撒布投棄スル計畫デアリマス

八 其他ノ設備

主要設備ハ前述ノ通リデアリマスガコノ外附帶設備トシテ場内給水設備、滓渣運搬船繫留用棧橋、場内照明設備、機械修理工場等各般ノ設備並ニ事務所、水質試驗所、公舍、倉庫、職工休憩所、浴室等各般ノ建物ヲ具備致シテ居リマス。

九 諸算額

本處分場設備費豫算額ハ概算四百四十八萬圓デアリマシテ人口一人當約十一圓二十錢ニ相當致シマス。

十 汚水處分作業概況

本處分場ノ工事ハ大正十二年三月末ヲ以テ完成ノ豫定デアリマスガ沈砂池、唧筒場、沈澱池等ノ設備並ニ濾過床一部ノ竣成ニ伴ヒ大正十一年三月二十六日ヨリ其部分的運用ヲ開始致シマシタ特ニ同年七月以降ニ於テハ本市屎尿處理ノ應急策ノ一トシテ乾天時下降水量ノ約二百分一ヲ超過セザル範圍内ニ於テハ一日約百七十石乃至二百五十石ノ純屎尿ヲ約五十倍ニ稀釋シテ汚水幹線ニ投棄致シマシタノデ七月以降ニ於テハ本處分場ニ於テ屎尿ヲ混ジタル汚水ヲ取扱ツタ次第デアリマス四月ヨリ九月末ニ至ル六箇月間ノ處分作業統計ハ次表ノ通リデアリマス。

大正十一年自四月至九月汚水處分作業統計

月 次	到達下水量 (千方メ)	沈砂池		沈澱池		濾過床		消費電力 キロワット		
		沈澱物 (千方メ)	浮遊物 (千方メ)	使用池數	滓渣量 (千方メ)	使用床數	處理水量 (千方メ)	主唧筒用	撇水機用	其 他
四 月	三七七六五〇	一六〇〇	一〇〇〇	四	四〇一〇	二	一六六六〇	三〇一〇	一〇〇	三一六〇
五 月	四一三五五〇	一九二〇	一〇〇〇	五	四〇一〇	二一四	二三三三〇	三〇一〇	一一〇〇	三一五〇
六 月	六一六六五〇	一〇〇〇	一〇〇〇	六	四〇一〇	二〇六	四九九〇〇	三六〇〇	一四〇〇	三一四〇
七 月	一五二三六〇	二五〇	一〇〇〇	七	五	三三三〇	一八〇〇	一八〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
八 月	一五三三六〇	一九六	一〇〇〇	五	四〇一〇	一八一	一八〇〇	一八〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
九 月	一四二三五〇	一九〇〇	九三	三	三五六〇	一一一	一六六六〇	一六〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
計	一四一四四〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一	一四〇〇〇	一一一	一四〇〇〇	一四〇〇〇	一四〇〇〇	一四〇〇〇

此期間ニ於テハ設備ノ内未ダ竣成セザルモノアリ從テ污水ノ處理ハ稍々不完全ノ點ヲ免レズ到達下水ノ大部分ハ沈澱池ヲ通過セシメテ放流シ約全量ノ四分一強ヲ濾過床ニ於テ取扱ツタ次第デアリマス本期間作業ノ結果ニ仍レバ沈砂池ニ於ケル沈澱物ハ到達下水十萬立方尺ニ對シ約七・五立方尺又沈澱池ニ堆積シタル滓渣量ハ下水十萬立方尺當リ一六九・三立方尺即チ下水量ノ約六百分ニ相當シテ居リマス

十一 下水水質試験

作業開始以後毎週三回宛下水水質試験ヲ施行致シテ居ルノデアリマスガ沈澱前沈澱後及ビ濾過後ノ各水質試験成績ノ平均ヲ四月ヨリ六月迄即チ屎尿混入前ト七月ヨリ九月迄即チ屎尿混入後トニ區分シ表示シタモノガ第一表及ビ第二表デアリマス

下水水質試験成績

第一表 大正十一年自四月至六月四十回平均

	沈澱前		沈澱後		濾過後	
	色	度	褐色又ハ帶黑褐色	同	上	淡褐色
濁	度	潤	濁	同	上	微潤
臭	氣	臭氣アリ	同	上	微臭又ハ無臭	
反	應	弱あるカリ性	同	上	同	上
固形物總量		九四四		一、一二六	八四五	九六六
熾灼減量		二四六		二二二	二四三	一九九
無機物		六九八		九〇四	六〇二	五四二
浮遊物質					七三六	五八五
容解物質					二五二	四〇
酸素吸收量(四時間)		一一六		一三五	五三	一八〇
					七一四	七〇七
					五八	七四五

第二表 大正十一年自七月三十八回平均

窒素總量	一一・三八	一二・九二	五・一	一六・一九	二六・六九	六・七〇
有機性窒素	四・一四	三・六五	一	五・一七	四・七七	
蛋白類似態窒素	一・三七	一・五〇	〇・八二	二・四二	二・〇六	〇・四八
あんもに性窒素	五・九八	七・八〇	一・五三	八・六三	一九・八四	〇・二九
亞硝酸性窒素	検出せず	同	〇・二六	検出せず	同	〇・四八
硝酸性窒素	検出せず	同	微量	検出せず	同	
細菌數	六五九・〇〇〇	六五〇・〇〇〇	三二三・〇〇〇	六五三・〇〇〇	四六三・〇〇〇	一五七・〇〇〇
大腸菌屬數	一	一	一	一	一	一
備考	數字ハ「リ一とる」中ノ「みりぐらむ」ヲ表ス					
細菌數ハ検水一c.c.中ノ聚落數						
大腸菌屬數ハ水一滴中ノ聚落數	(c.c.一ハ約二十四滴)					

本表ニ示ス如ク下水水質試験ノ結果到達下水ハ屎尿ヲ混ズルト然ラザルトニヨリ著シキ性狀ノ變化ナク只ダ窒素化合物及ビ有機物質ヲ増加シタル傾向ヲ認メラレマス一般ニ到達下水ノ物理的性狀ハ褐色又ハ帶黑褐色ニシテ著シク溷濁シ特有ノ臭氣アリ弱あるから性デアリマシテ此性狀ハ沈澱後迄差シタル變化ナキモ濾過床ヲ通過スルトキハ淡褐色又ハ無色トナリ僅ニ溷濁ヲ帶ビ殆ンド臭氣ヲ感ゼザル程度ニ淨化セラレマス

固形物總量ノ内溶存物質ノ量ハ著シキ變化ナキモ浮遊物質ハ沈澱池ニ於テ約八四%減少シ濾過ノ結果多少増加スルモ尙八〇%ノ減少ヲ示シテ居リマス四時間ニ於ケル酸素吸収量ハ六八%減少シ窒素化合物ノ内腐敗性ノ蛋白類似あんもニあ態窒素ハ八〇%より一・あんもにあハ九七%減少シ他面ニ於テ亞硝酸及ビ硝酸ヲ検出シ濾過ノ結果下水ノ腐敗性著シク減少シ安定ナル化合物ニ變化シタコトヲ観知スルコトガ出來マス又細菌試験ノ結果ハ細菌聚落數ニ於テ七六%大腸菌數ニ於テ九〇%ノ減少ヲ示シテ居リマス

上述ノ結果ハ設備ノ運用日尙ホ淺ク僅々六箇月間ノ成績ニ過ギザルヲ以テ未ダ本設備ノ効率ヲ判定スルニ充分トハ申サ

レマセング外國ニ於ケルとりくりんぐ・べつどノ成績實例モ大同小異デアリマスカラ先づ大體ノ見當ヲ得ルニ足ルモノト信ジマス若シ夫レ一層精確ナル結果ニ就テハ今後運用ヲ重ネタル上各位ノ御参考ニ供スル機會ガアロフカト考ヘマス

此際附加ヘテ申上ゲテ置キタイノハ本處分場設備ノ設計者ハ本會々員米元晋一氏デアリマシテ小野榮作氏衣斐清香氏太田辛一氏等主トシテ之ニ干與シ日下部博士ハ當時市技師長トシテ又中島博士及ビ故近藤博士ハ顧問トシテ指導ノ任ニ當ラレマシタ又本場ノ機械設備ハ全部内地製作品デアリマシテ工學士大口章次氏ノ努力ニ俟ツ所多ク斯波博士ハ顧問トシテ絶ヘズ指導ノ任ニ當ラレタノデアリマス此機會ニ於テ此等ノ方々ノ御盡力ニ對シ切ニ感謝ノ意ヲ表スル次第デアリマス

尙終リニ臨ミマシテ各位ノ御清聽ヲ煩ハシタコトヲ深ク感謝致シマス（拍手）

右講演後左ノ質問應答アリタリ

○副會長中山秀三郎君 何カ御質問ガアリマスナラバ……

○川上浩二郎君 問 此間現場ヲ拜見シマシタ時ニ荒川ニ放流スル前ニ警視廳ノ注意デ嚴重ニ捺ヘタト云フコトデ虎列拉菌ノ消毒設備ヲ見マシタガソレハ唯今御講演ニナツタ設備ガ完成シナイタメ臨機ノ方法トシテヤツテ居リマスカ

○原全路君 答 此計畫ニハ特別ニ消毒設備ハ有ツテ居リマセヌ所ガ此試驗成績ニモ現レテ居リマスヤウニ腸内ばくてリやノ代表タル大腸菌屬ハ相當減少致シマスガ是ハ比較的ノ話デアリマシテ全部ナクナルト云フ譯ニハ參リマセヌソコデ虎列拉トカ室扶斯トカ云フ傳染病ノ流行時ニ於キマシテハ矢張何等カノ消毒方法ガ必要ダト考ヘマス先達ノ虎列拉流行時ニハ警視廳ヨリ話モアリマシタガ私共進ンデ殺菌裝置ヲ施シタ次第デアリマス

○川上浩二郎君 問 ソウスルト此流行ナルモノハ何時モ突發的ノモノデアリマスカラ平生ニ於テモサウ云フ殺菌裝置ニ仍リ消毒シテ後ニ放流スルコトガ必要デヤナイカト思ヒマスガ此點ハ如何デゴザイマスカ

242

○原全路君 答 製菌裝置ハ必要ト考ヘマス然シ當時製菌シテ放流スルトイコトハ「うらかんぐ・えきす・べんす」ノ非常ニ掛ルコトデアリマスノミナラズ平生ニ於テハ大腸菌ハアリマスガ病源菌デハアリマセヌカラ病源菌ガ這入ル處レノアル流行時ノ外ハ消毒ノ必要ハナイモノト考ヘマス

○青山士君 問 此計畫ハ元々皆糞尿ガ伴フ第二區デアリマス淺草、下谷等ノ區域内ニ住ンデ居ル者ノ糞尿ガ全部這入ルモノトシテ御計畫ニナツタモノデゴザイマスカ或ハ臺所ノ污水ダケ流スモノトシテ御計畫ニナツタモノデゴザイマスカソレヲ承ツテ置キタイ

○原全路君 答 水便所ニヨツタ場合ニハ屎尿モ全部流シ出シテヨイト云フ計畫デアリマス

○青山士君 問 サウ致シマスルト淺草邊デ下水ノ二百分一トイフ程度ニ於テ糞尿ヲ入レタ其試驗ノ結果ハ二三箇月ニ涉リ表ハレテ居リマスソレガ西洋邊リデノ試驗ノ結果ト大差ナイト云フ話デゴザイマシタガ多クテ四十萬人ト仰セニナリマシタガ其四十萬人ノ糞尿ガ全部這入ツタ時ニハドノ位今ヨリモ悪イ成績ニナルカト云フコトハ御考ニナツテ居リマスカ其時ニハ今ノ方ガ仰者ツタヤウニ消毒ノ方法ガ必要デハナイデセウカ

○原全路君 答 消毒ノ必要ノ有無ハ御話ノ如ク下水ノ濃度ヨリモ病源菌ノ混入如何ニヨツテ決スベキ問題カト考ヘマス大體先程申シマシタ汚水量ノ二百分一ノ範圍ヲ超過シナイ程度デ入レタト云フコトハ將來四十萬人ニナリマシテモ我邦ノ現狀ヨリ考察シ污水ト水便所ニヨル糞尿ノ割合ハ此ノ程度デアラウトイフコトヲ推定致シマシテ「百分一ヲ超過シナイヤウニシマシタ

○青山士君 問 ソンナモノデスカ

○原全路君 答 先ゾンナモノカト考ヘテ居リマス

○青山士君 問 併シ今四十萬人ノ糞尿ヲ淺草ノ處デ入レルト云フコトハ非常ナ混雜デ殆ド不可能デセウ今二百分一ノ糞尿ヲ入レソレト下水カラ出タ所ノモノト糞尿トノ比例ハ違ツテ來ハセヌカト思ヒマス

- 原全路君 答 只今ノ御意見ハ下水量ニ比シ屎尿ノ割合ガ實際ノ場合ヨリ少ナクハナイデセヤウカ……
- 青山士君 問 イヤ現在ノ状態ヨリ下水ニ對シテモソト糞尿ノ多イ所ガ三河島ニ流レテ來テ其結果ヨリ惡クナリハセナイデセウカ即チ西洋諸國デ行ハレテ居ル所ノえふしんしょリ惡クナリハセンデシヤウカ
- 原全路君 答 前申上ゲタ如ク私ハ近キ將來ニ於テ下水ノ濃度ガ二百分一程度ノ純屎尿ヲ加ヘタルモノヨリモ著シク惡クナルトイコトヲ豫想致シマセンガ然シ之ハ推定ニ過ギマセン御意見ノ如ク將來ニ於テ若シ現在混入シテ居ル以上ノ屎尿ガ來タ場合ニ此ノ成績ヨリ幾分變ツタ結果ガ生ズルコトト考ヘマス
- 青山士君 問 詰リ其時ニ對スル何カ御計畫ガアリマスカ
- 原全路君 答 將來ニ於テ萬一我々ノ豫想ヨリモ屎尿ト下水ノ割合ガ多クナリ詰リでんすナ下水ガ來ルトイフ場合ニハ前ニ申述ベタヨウニ此設備ノ濾過ノれーとハ外國ノ實例カラ見レバ一番まさしまむニナツテ居リマスカラ若シ必要ナラバ濾過ノ速度ヲ加減シテ濾過設備ヲ増設スルトイコトガ起ツテ來ルカモ知レマセヌ
- 井上秀二君 問 此汚水處分ヲシタ濾過セラレタ下水ノ細菌學的性質ハ巴里トカ柏林ニ行ハレテ居ルぶろーど・いりげーしょんニ依ルモノニ比較シテドンナモノデアリマスカ
- 原全路君 答 ぶろーど・いりげーしょんニ依ツタモノノ細菌減少率ハ今記憶シテ居リマセヌガ撒布濾過ニヨルモノヨリモ良好ト考ヘマス
- 原貞介君 問 平素ドウイフ細菌検査ヲナサルカソレヲ一向ナサラヌデ濾過シタモノヲ河ニ棄テルノデアリマスカ又ハ細菌検査ヲ毎年一回トカ或ハ一週一回ナサルトイフ御意見デアリマスカ
- 原全路君 答 細菌検査ハ汚水處分開始以來一般細菌聚落數ト大腸菌屬數トヲ毎週三回宛調査シテ居リマス尙是ハ今後モ繼續シテ施行スル豫定デアリマス
- 井上秀二君 問 是ハ本題ニ直接關係ハナイノデアリマスガ將來臺場附近ニ出來ル處分場モ之ト同ジヤウナしすてむ

ノ處分場が出來マスカ

○原全路君 答 明治四十一年ニ定メラレタ計畫デハ臺場附近ニ設クル第一區ノ處分場ニハせんぶちく・たんくヲ設置スルコトニナツテ居リマス

○藏重哲三君 問 沈澱池カラ濾過池ニ移リマス間ニどーじんぐ・ぶろせすガアルト仰セデゴザイマシタガ其處デ何力薬液ヲ御加ヘニナリマスモノカ加ヘルトスルトドウ云フモノヲ……

○原全路君 答 何モ薬液ハ加ヘマセヌ只下水ヲ濾過床ニどーずスルダケデアリマス

○井上秀二君 問 先程虎列拉ノ流行期ニ殺菌裝直ヲ爲シタト云フコトデアリマスガ殺菌剤ハ何ヲオ使ヒニ……

○原全路君 答 くるる・かるきヲ用ヒマシタ

○茂庭忠次郎君 問 先刻ノ御話ニ沈澱池ニ來タ汚水ノ三倍以上ハ濾過セズニ出ルトイフオ話デスガ其汚水量ノ三倍ハ殆ド濾過池ヲ潜ツタモノト同ジニナルト云フ御見込ミデオ仰セニナツタノデアリマスカ

○原全路君 答 ソウデハアリマセヌサウ云フ多量ニ來ル場合ハ降雨時デアリマスカラ汚水ハ餘程稀釋セラレテ居リ且ツ荒川ノ水質ノ方モ悪クナツテ居ルコレ以上ニ此處デ處分シテ出ス必要モナカロフト云フ譯デアリマシテツマリ合流法ノ原則トシテ自淨作用ニ待タウトイフ次第デアリマス

○茂庭忠次郎君 問 水質ノ試験ハ……

○原全路君 答 其水質ノ比較試験ハ致シテ居リマセヌ

○茂庭忠次郎君 問 大抵其間ニ荒川ノ水質ハ同じ位ナモノデ……

○原全路君 答 物理的性狀カラ見テ非常ニ濁ツテ居リ且ツ其水量モ増シマスカラ此處デ細菌處理ヲシテ出サナイデモ宣カラウト思ツテ居リマス

○原田貞介君 問 ソレハ將來ノ爲ニ一ツ御試験ヲ願フコトガ出來マセウカ荒川ノ洪水ノ時汚染方ガ甚ダシイト云フコ

- トニ就テハ多少疑問ヲ有ツテ居リマス
- 原全路君 答 諒承致シマシタ荒川ノ水質ニ此處デ流シマシタ汚水ガ如何ナル影響ヲ及ボスカト云フコトハ將來ニ亘
リ繼續シテ調査スル豫定デアリマス
- 中倉専一郎君 答 此汚水處分場カラ肥料ヲ取ルトイフコトハゴザイマセヌカ
- 原全路君 答 汚水處分場カラ出マスすらガハ非常ナ厄介物デアリマスガ是ガ經濟的ニ肥料トシテ利用シ得ラルビ
バ非常ニ有益ナコトデアリマスカラ専間家ニ嘱託シ色々々調査致シテ居リマスヤダ肥料トシテ實際ニ利用シ得ルカドウカ
ト云フコトハヨク分リマセヌ然シすらガノ肥功試験ヲ試ミマシタ結果ニ依リマスト相當肥功ガアルヤウデアリマス即
チ窒素肥料トシテ硫酸安母尼亞ニ比較致シマスト劣ツテ居リマスすらガト硫酸安母尼亞ヲ等量ニ加ヘマシタモノハ硫
酸安母尼亞單獨ノモノヨリモ遙ニ肥功ガアリマス尙ホ是ハ繼續試験中ニ屬シマスルシ且ツ實際上ニモ試ミタ上其結果ヲ
發表致シ度イト考ヘマスガ今日迄ノ試験ノ結果ニヨレバ相當有效ト認メラルノデアリマス
- 山口準之助君 問 此糞便デスガニ其時ノすらガハ臭氣ハドウデゴザイマセウカ素ヨリひるたゞベド通過シ
ニ一度取除カナケレバナラナイソレヲ取除クニ當ツテ臭氣ハアリマスカ
- 原全路君 答 すらガ其物ハ特有ノ臭氣ガアリマスガ糞尿ヲ加ヘマシタ以後ノ變化ニ就テハマダ注意シテ調べテ見
ゼヌガ下水其物ガ著シク糞尿臭ヲ帶ビテ居リマスカラすらガニモ多少糞尿臭ガアルグロウト考ヘマス
- 山口準之助君 問 ソレハ機械デ壓送シテたんくニ入レルコトニナツテ居リマスカ
- 原全路君 答 サウデス
- 山口準之助君 問 是ハ個人デ引出サウトスレバ困難デスカ
- 原全路君 答 ソレハ隨分危険デアラフト思ヒマス

○山口準之助君 問 其すらぢヲばーぢニ積ンデドノ邊マデオ持チニナルノデスカ

○原全路君 答 先づ東京灣ノ一番海流ノ速イ新陳代謝ノヨイ處迄持ツテ行カウト思ヒマス

○中島銳治君 問 私ハ今ノ講演ニ一言附加ヘテ置キタウゴザイマス此第二區ヲ最初ニ何故ヤツタカト云フ御質問モナカツタデスガ是ハ仕事ヲ愈々ヤル時ニ何處ヲ最初ニヤツタラ宜カラウカト云フコトヲ市ノ助役カラ私ニ相談ガアツタ其時實ヘ日本橋、京橋即チズット此邊ノ第一區ノ内ヲヤリタカツタガ何分經驗モ充分ナイシ且ツ區域モ廣イ其上品川ノ臺場ニ送ル五呎ノ鐵管五本モ旨グ行クカドウカ疑問ノ點ガ澤山アツテ其調査モ充分ヤツテ居ラヌ際デアツタカラ先づ纏ツテ居ル第二區カラ取敢ヘズヤツタラ宜カラウト云フコトデ第二區ヲ最初ニ着手シタノデアリマスソレカラ一二年モ經ツタラ第一區モヤラウトイフ約束デアツタマタ本所、深川ノ方ハ何分雨水氾濫モ烈シイノデ非常ニ困難デアルカラコレハ荒川ニ何カ工事ガ出來又周圍ニ堤防デモ出來テカラヤルノガ順序デアツテ是メ一番最後デアラウト云フ自分ノ考ヘデアツタ所デ第二區ハ十年モ掛ルガ其内ニ第一區モ着手シナケバナラストイフノデ二千萬圓デ第一區ノ一部ニ着手シタ譯デアリマス私ハ其時分ノ考ヘトハ多少違ツテ居リマスガ事情ヲ申上グテ置クノデアリマス以上ノ理由デ第二區ヲ擇ングノデアリマシテソレ等ノ事情ハ原サンハ或ハ御承知ナイカモ知レヤセヌカラ私カラ鳥渡附加ヘテ置キマス

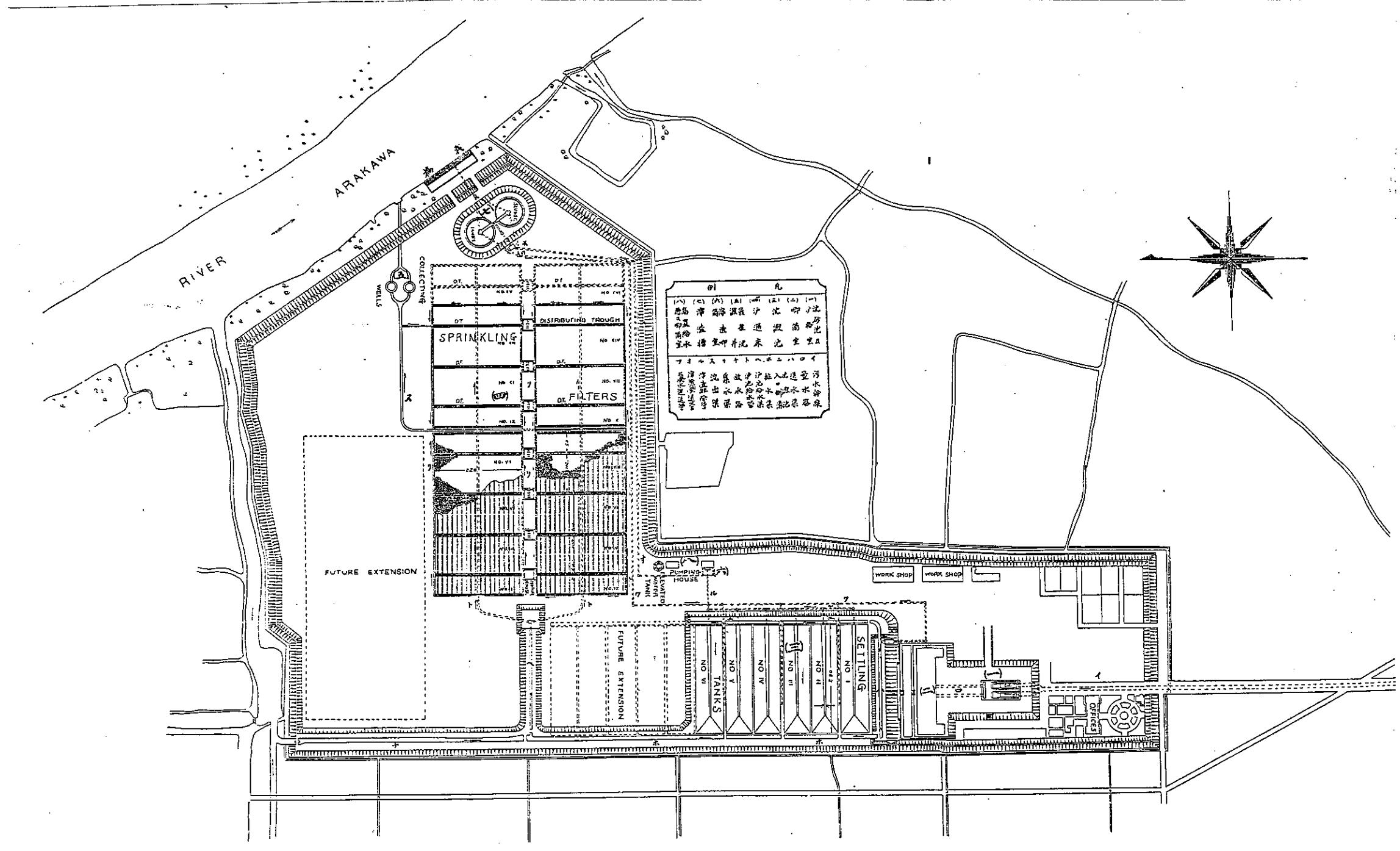
○原全路君 問程ノ御質問ニ處分場ヨリノ流出水ノ爲メ荒川ノ水質ヲ汚シハセヌカト云フ御懸念が大分ゴザイマシタガ今回ハ只處分ノ結果ヲ大體御詰致スコトニ止メマシタ故私ノ説明ニ不充分ノ點ガアツタヨウニ考ヘマスノデ一言附加ヘテ置キタイト思ヒマス市ニ於テハ此下水水質試験ト共ニ荒川筋ニ於テ處分場ヨリ上流吐口ノ附近並ニ處分場下流千住大橋附近ノ三箇所ヲ撰定シ流出水ノ荒川水質ニ及ボス影響ヲ毎月二回宛調查致シテ居リマス素ヨリ此如キ調査ハ長期間ノ結果ニヨラザレバ其影響如何ヲ申述ベルコトハ出來マセヌガ今日迄ノ試験ノ結果ハ上流ノ水質ト下流ノ水質トハ何等變化ノ形跡ヲ認メテ居ラヌ次第デアリマス此際一寸附加ヘテ申上ダテ置キマス

○副會長中山秀三郎君 モウ御質問モアリマセヌカラ私カラ講演者ニ御禮ヲ申上ダテ置キマス

水等ノ仕事ガ色々ナ事情デ其實現ガ遲レテ居マシタガ其最初ノ三河島汚水處分場ガ本年度デ完成スルコトニナリマシタ
 ノデソレニ就キマシテ講演者ハ其計畫カラ設備ノ事カラ其使用ノ方法等ヲ詳細ニ御述べ下サイマシテ且ツ又其一部使用
 セラレタ結果ノ成績モ表ニ現ハシテ御示シ下サイマシテ會員一同多大ノ利益ヲ得マシタコトヲ一同ニ代リマシテ感謝致
 ス次第デゴザイマス（拍手）（完）

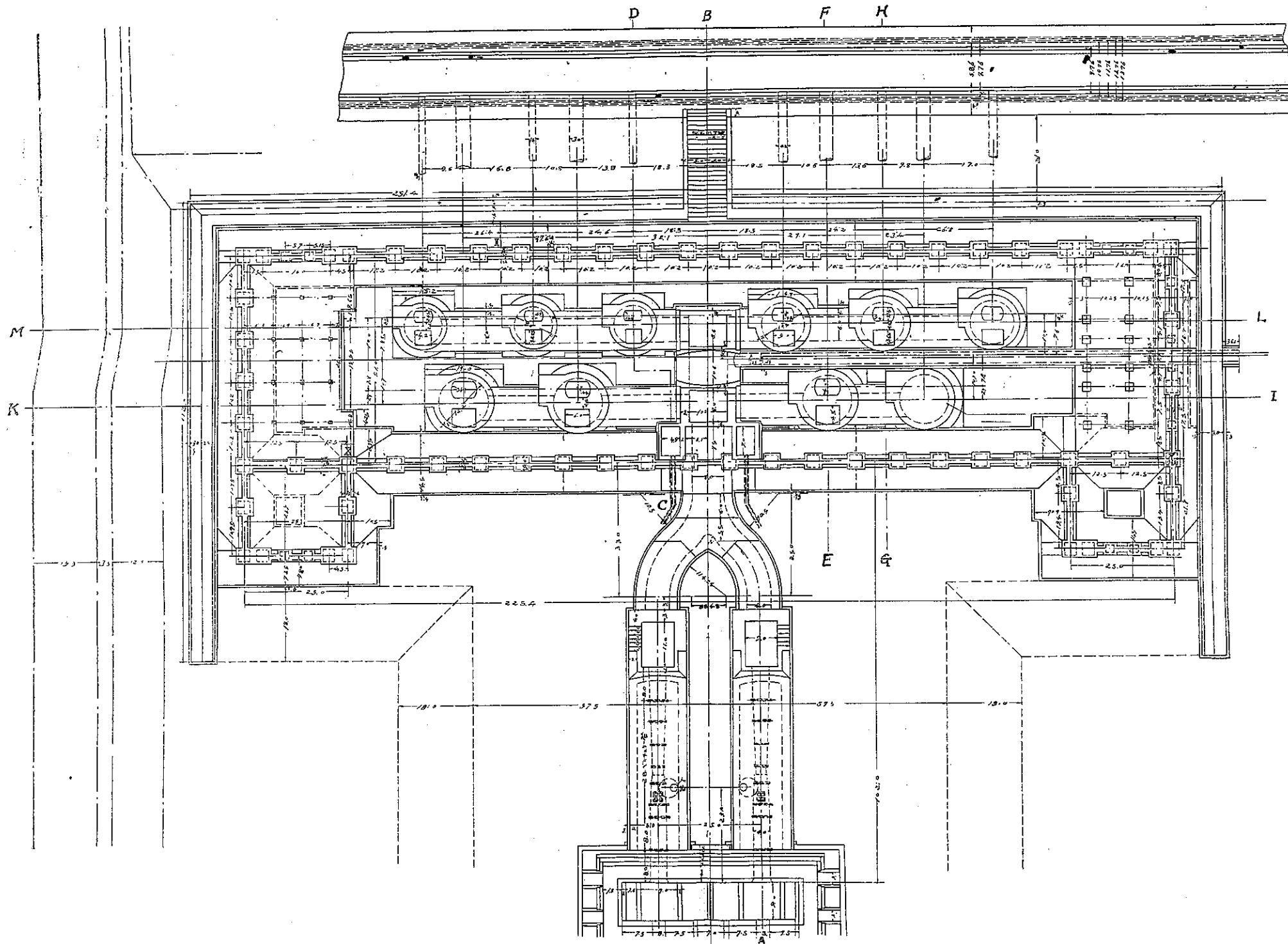
附圖第一 東京市下水道三河島污水處分工場平面圖

(付圖第一 東京市下水道三河島污水處分工場平面圖)



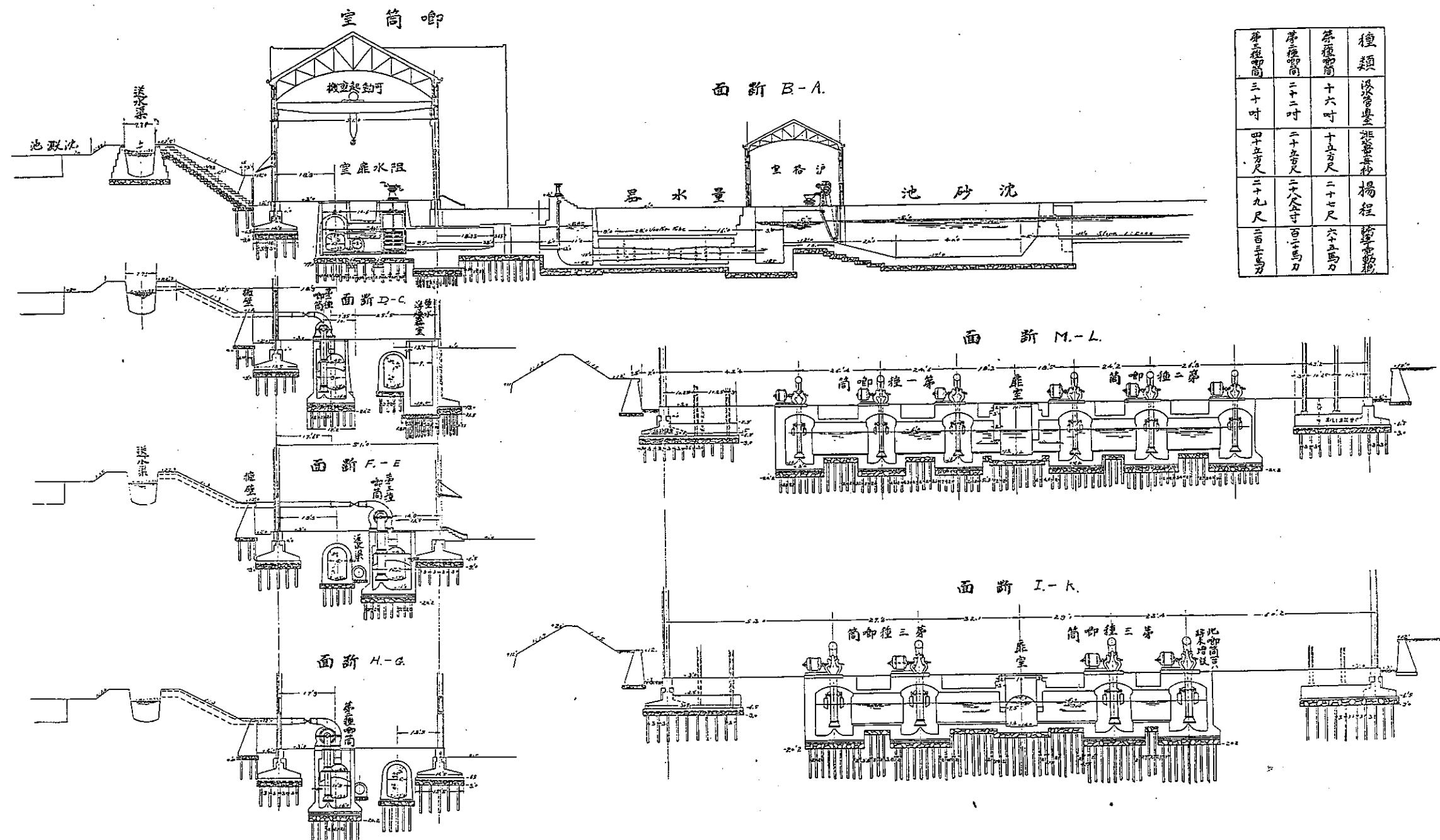
附圖第二 東京市下水道三河島污水處分工場唧筒室附近平面圖

(土木部令第23號圖)



附圖第三 東京市下水道三河島污水處分工場唧筒室附近斷面圖

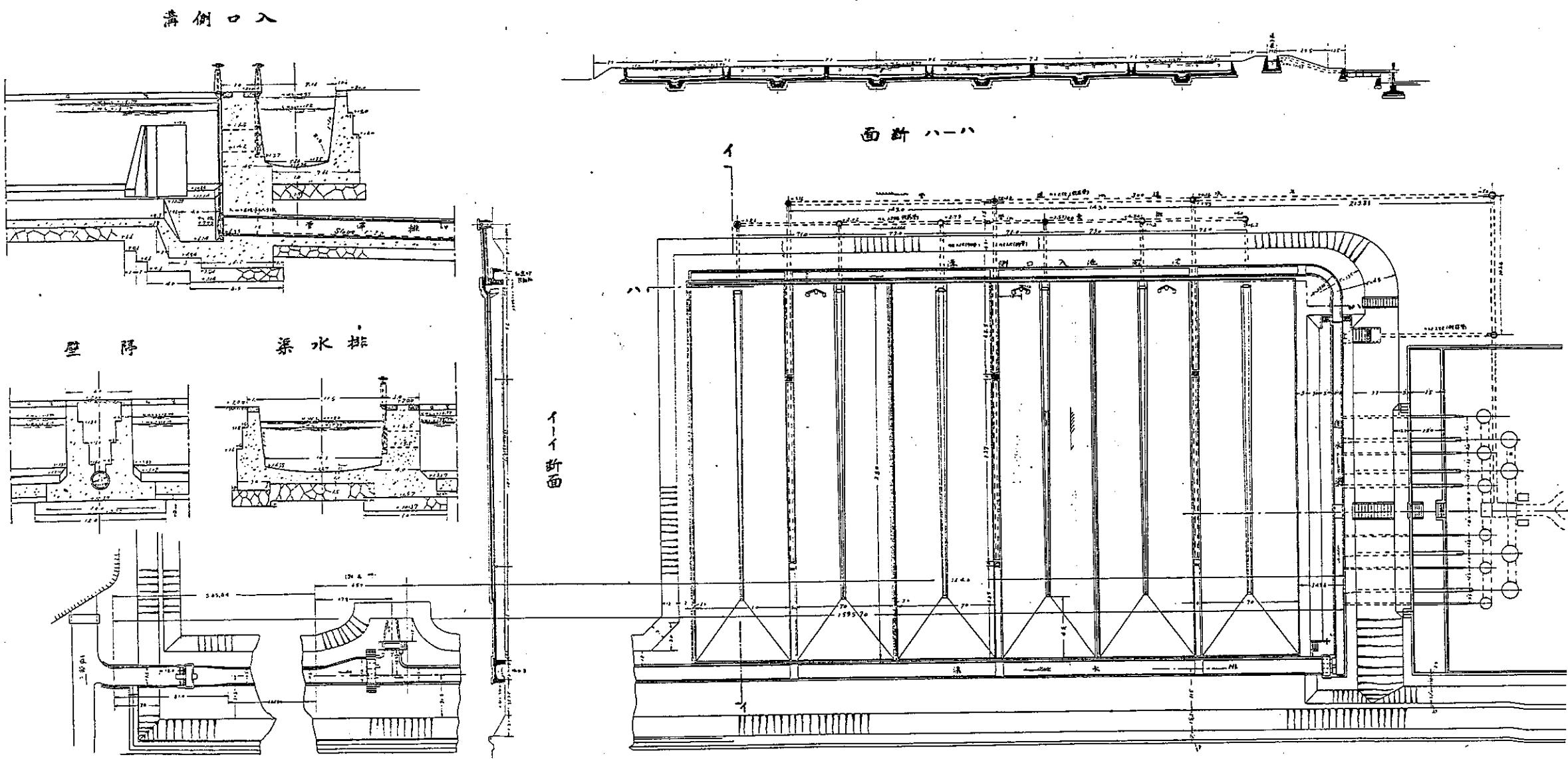
(大日本株式會社)



附圖第四

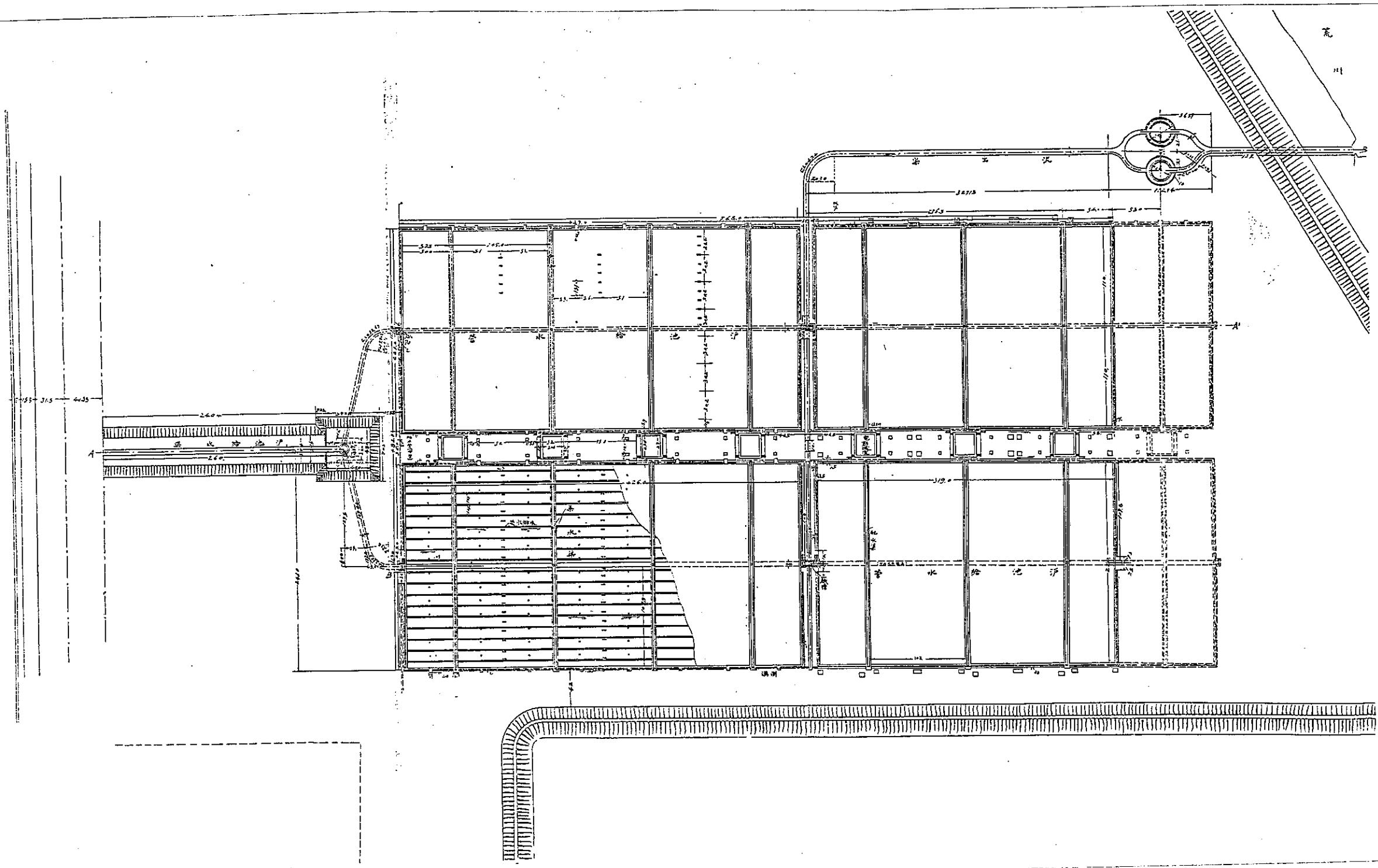
東京市下水道三河島污水處分工場沈澱池設計圖

(土木第壹號第六卷第1圖)



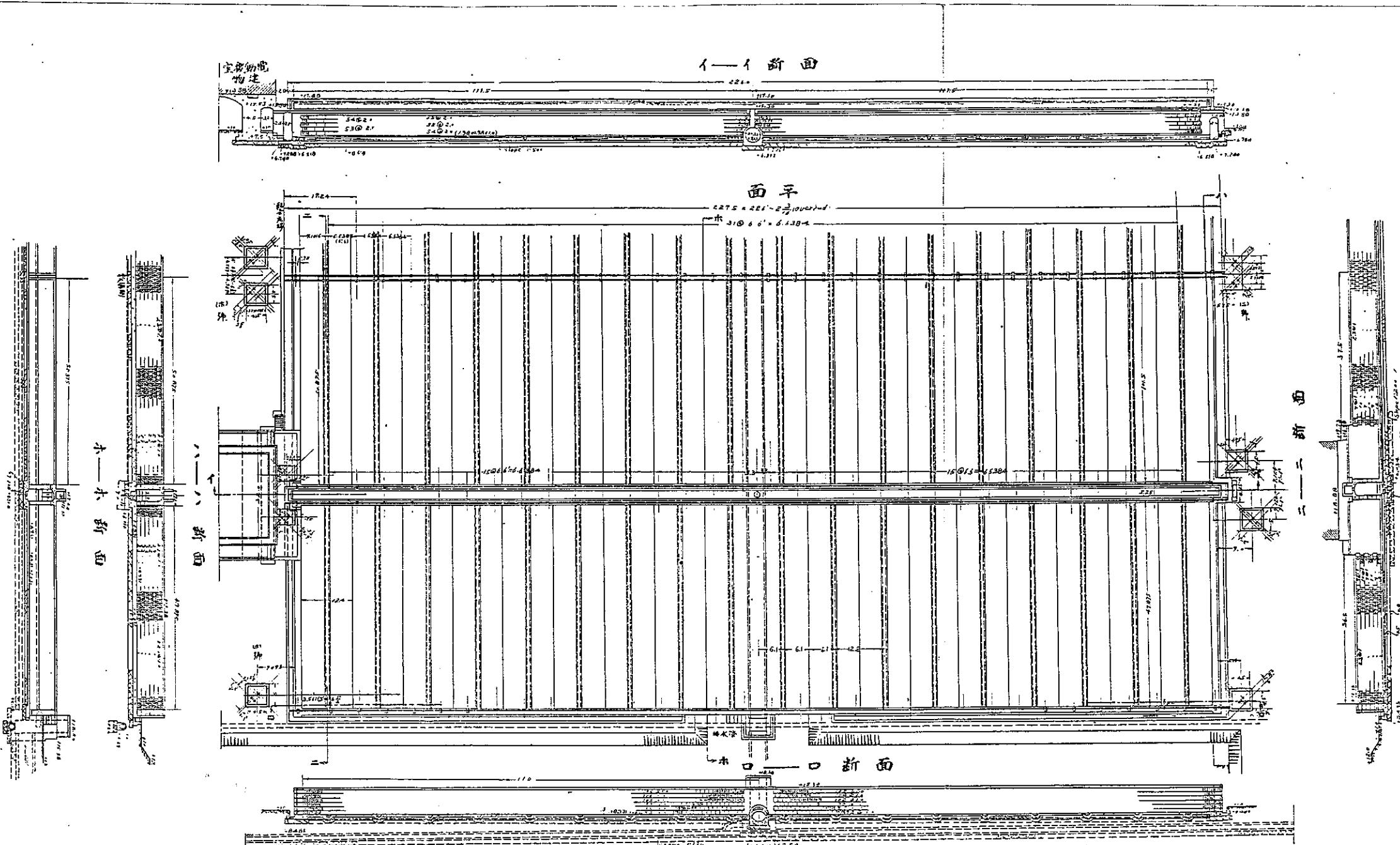
附圖第五 東京市下水道三河島污水處分工場濾過床平面圖

（昭和十二年五月）



附圖第六 東京市下水道三河島污水處分工場濾過床構造圖（其一）

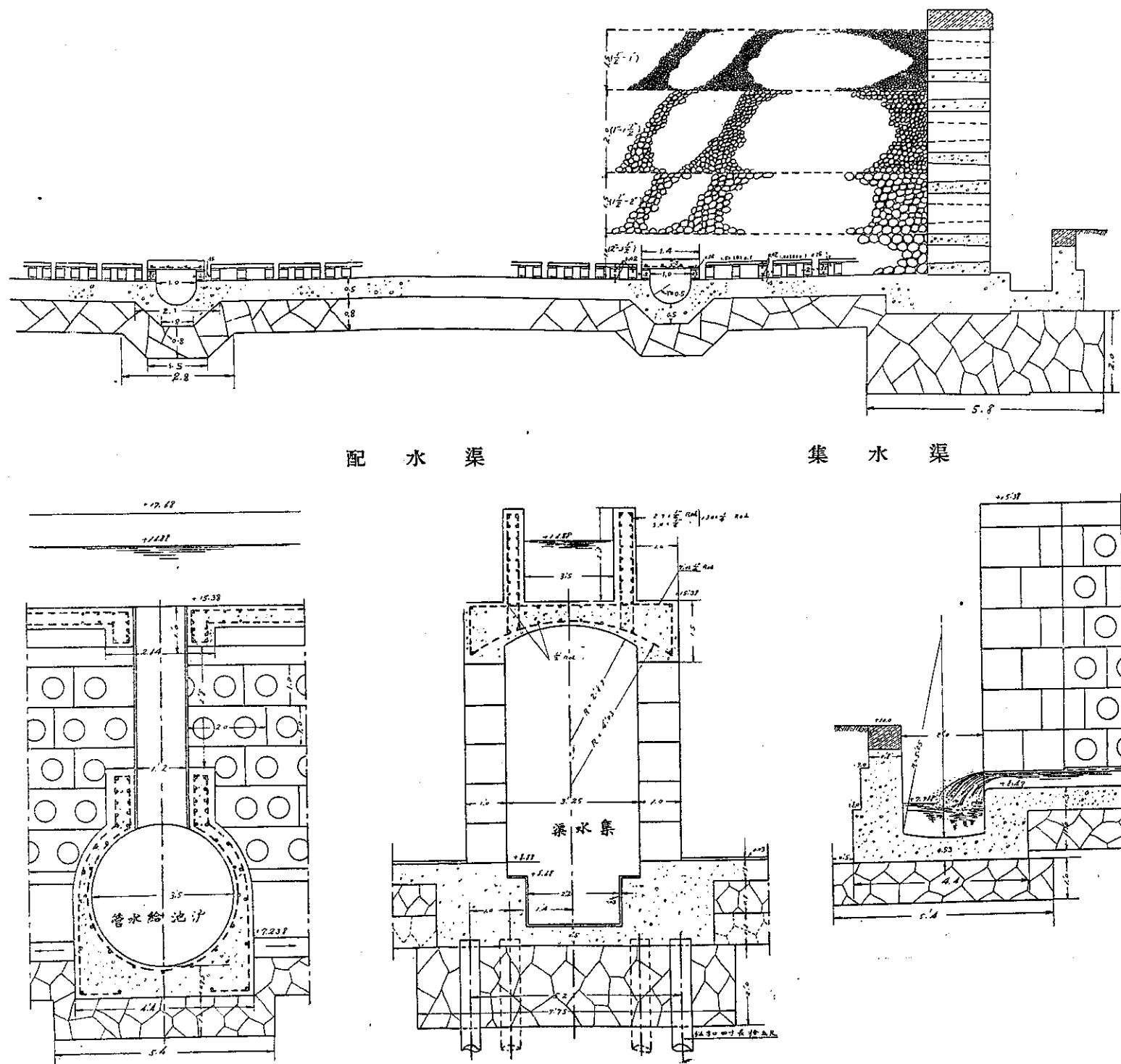
（土木建築研究會圖說）



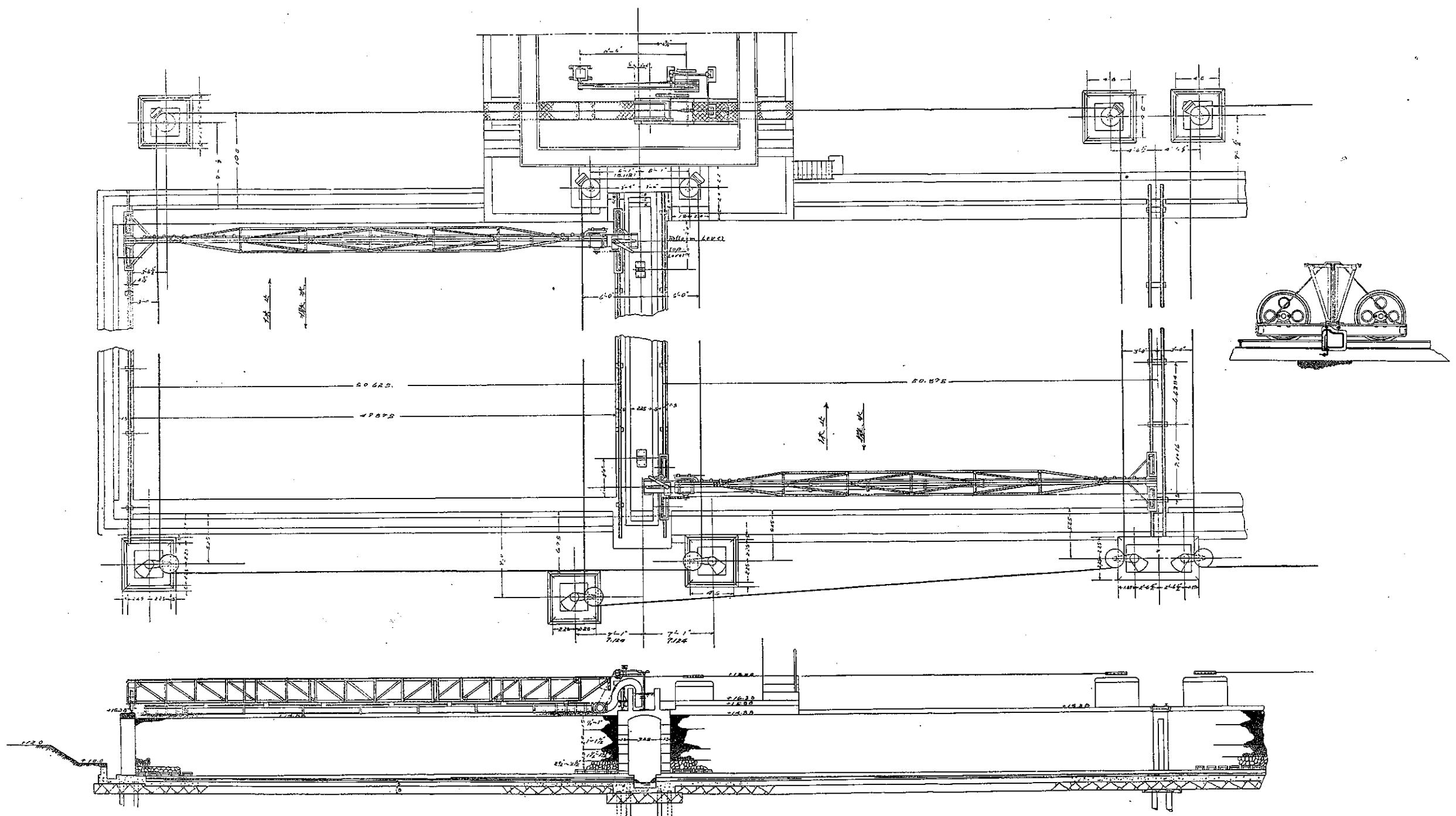
附圖第七 東京市下水道三河島污水分工場濾過床構造圖（其二）

（土木學會誌九卷圖二號附圖）

濾床及通氣設備

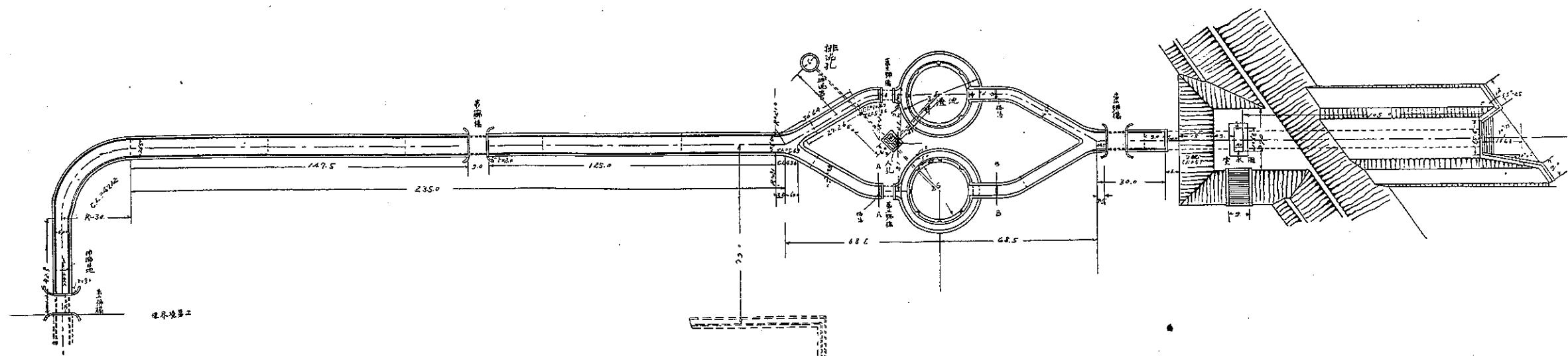


附圖第八 東京市下水道三河島污水處分工場濾過床撒水機配置圖

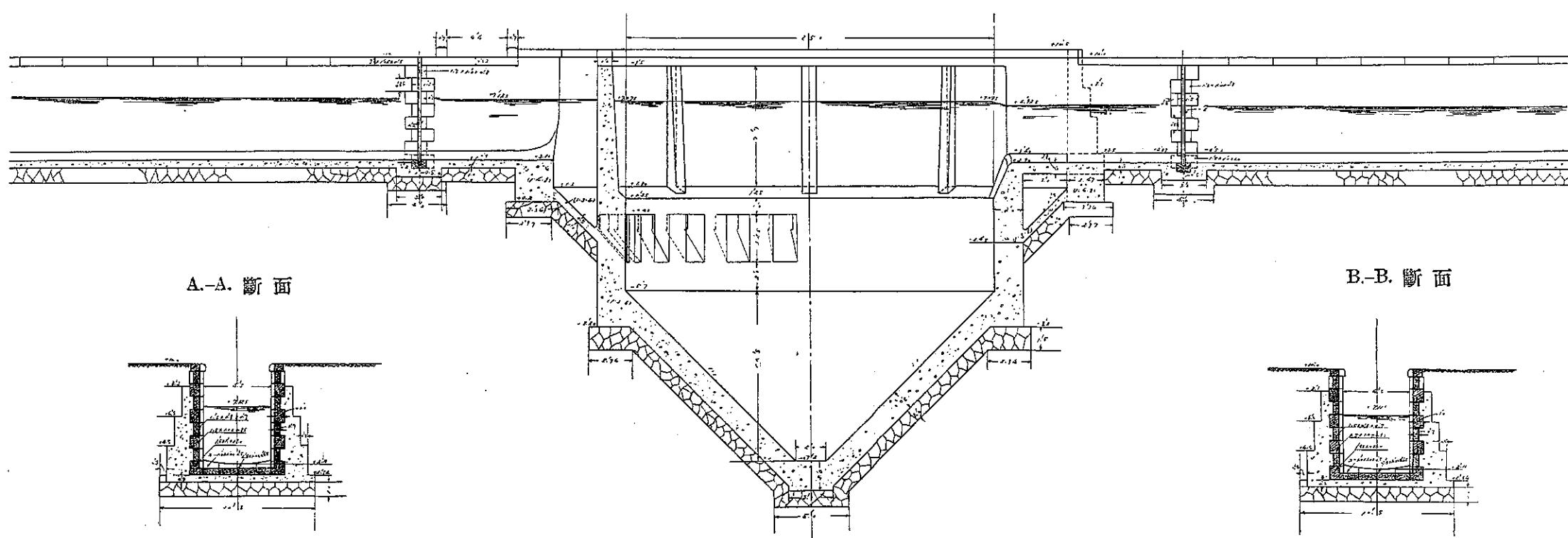


附圖第九 東京市下水道三河島污水處分工場沈澱井設計圖

(土木學會誌第九卷第二號附圖)

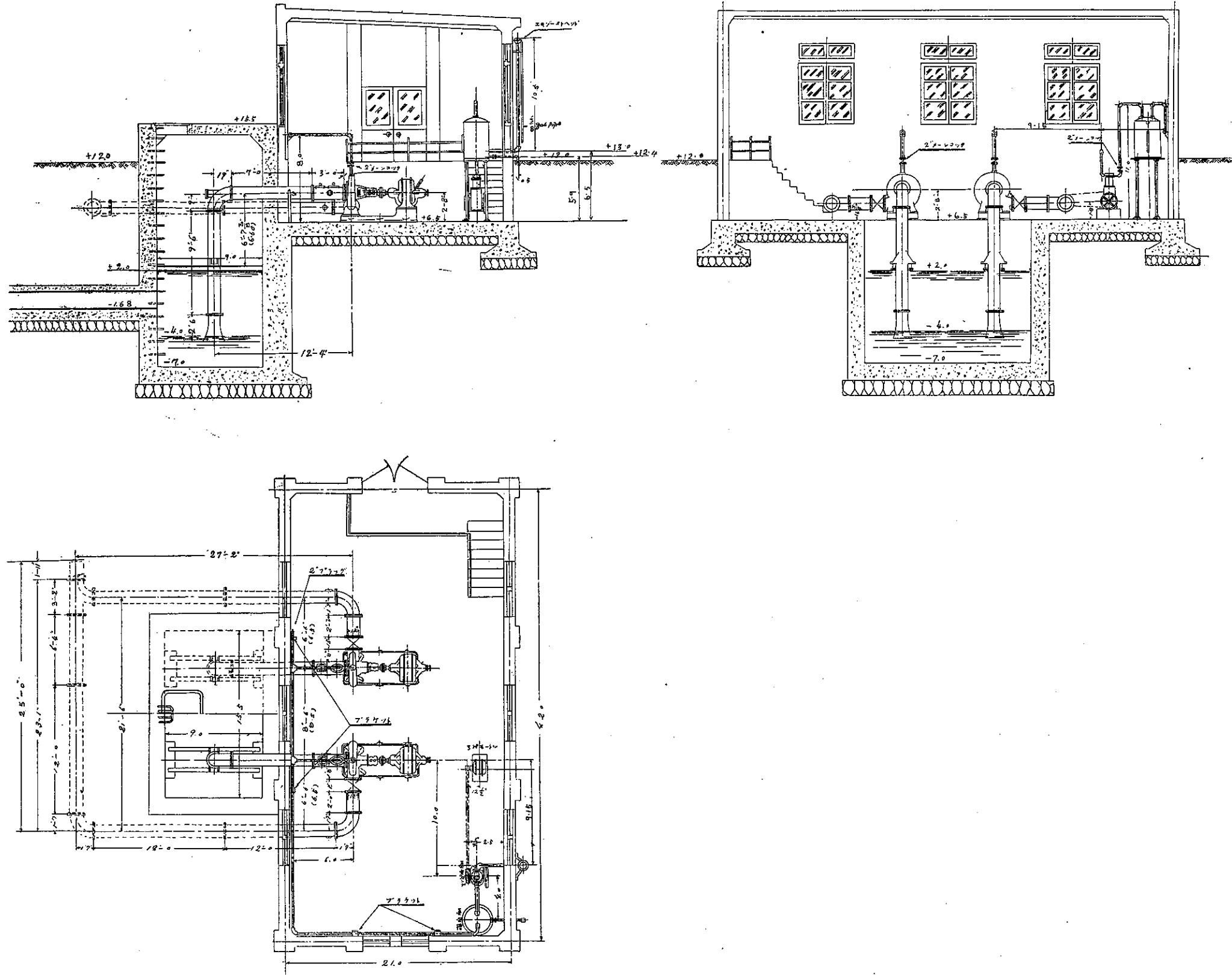


斷面圖



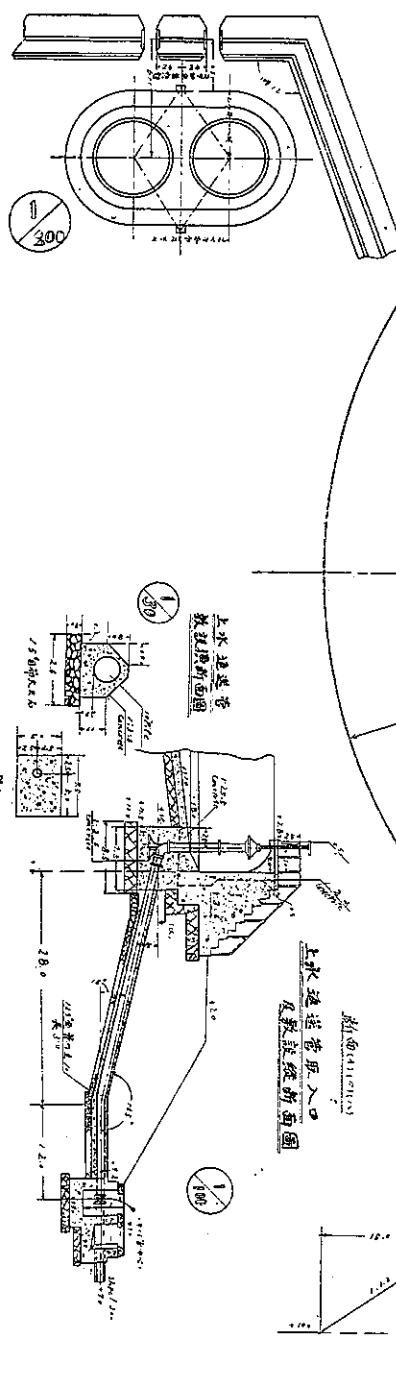
附圖第十 東京市下水道三河島污水處分工場浮渣唧筒室設計圖

(土木學會誌第九卷第二號附圖)

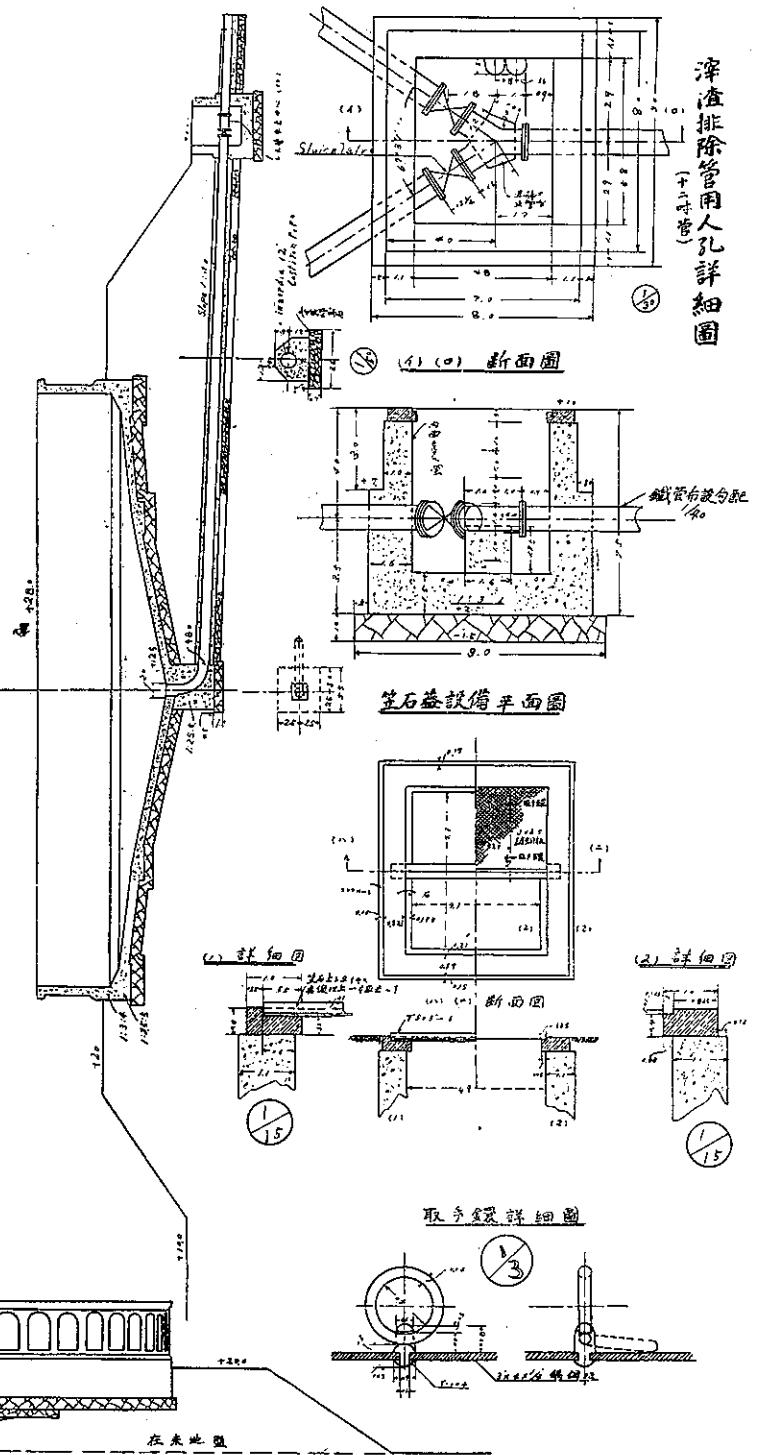
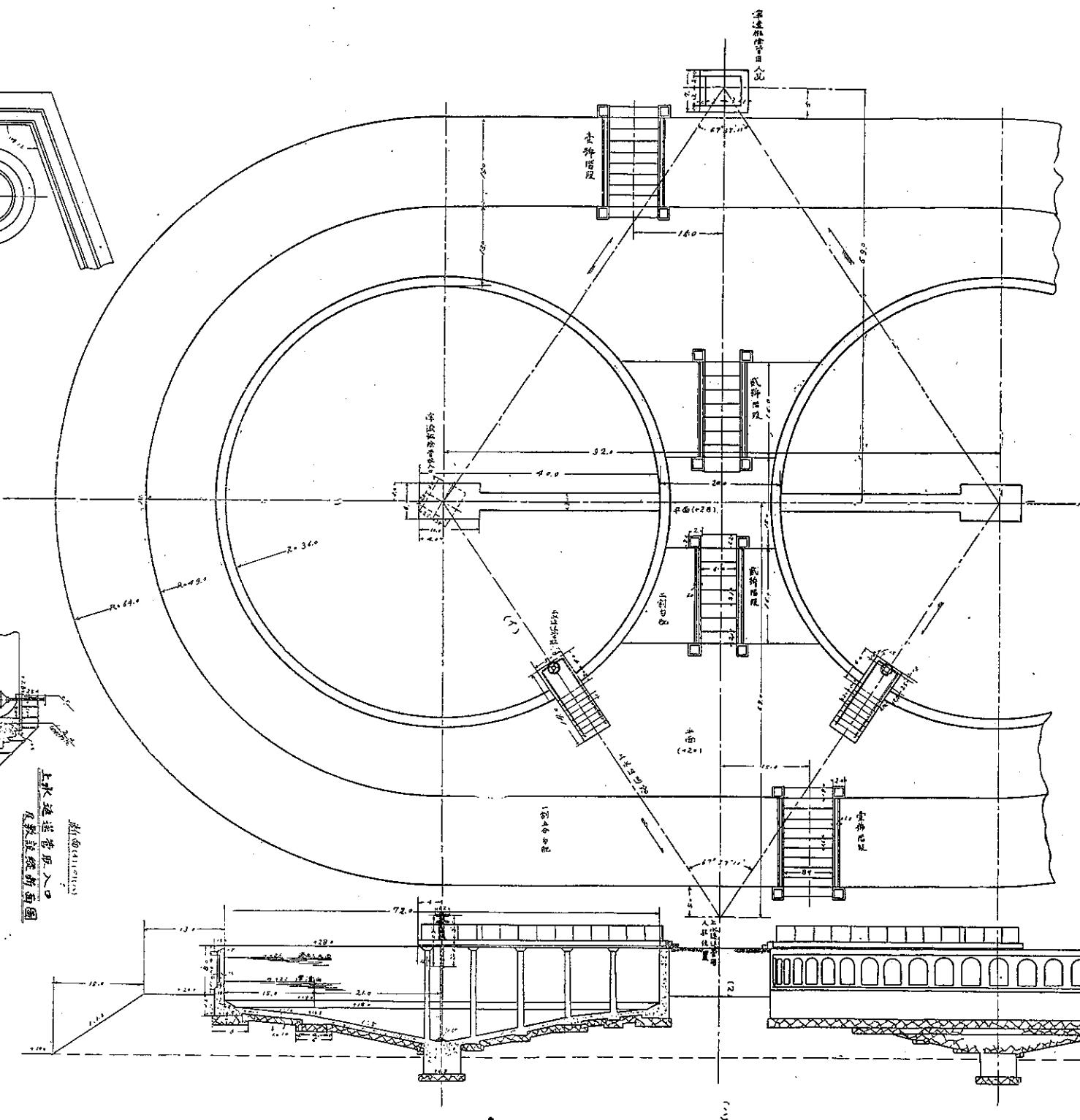


附圖第十一 東京市下水道三河島污水處分工場滓渣槽設計圖

滓渣槽位置圖



滓渣槽位置圖



滓渣排除管用人孔詳細圖